

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 16 号

平成30年11月 5日発行  
須賀川市立第二中学校  
☎75-2910  
発行責任者：校長 高崎則行

# 全日本合唱コンクールで金賞を獲得 夢の舞台上で納得のいく合唱演奏ができた

中学校部門・混声合唱の部、本校の合唱演奏は、2日目の10月28日(日)正午ちょうどに流れ始めた。曲目は、オラ・イエイロ作曲、Prelude(プレリュード)、Agnus Dei:Phoenix(平和の賛歌)。

長野市のホクト文化センターで開催された全日本合唱コンクール全国大会で、本校は見事、金賞を射止めることができました。この栄誉は、日々の授業、学校生活、家庭生活が土台となって成し遂げたもので、その意味から全校性、卒業生、教職員、ご家族、地域の皆様とともに、この大きな喜びを分かち合いたいと思います。

大会のプログラムには、生徒の言葉でこのようなコメントが掲載されています。

「皆さん、こんにちは。私たちは『ここからここへ』を合言葉に活動してきました。共に歌う仲間と心を通わせること。そして私たちの心から、歌を聴いてくださる方々、私たち方々の心へ、感謝の気持ちが伝わるようにと日々練習しています。



今年挑戦した『平和への賛歌』は、イエイロがアメリカ西部の広大で美しい砂漠をイメージした、映画音楽を思わせてくれるすてきな曲です。これまで先輩方と目指したこの夢のステージで、今日は感謝の気持ちを伝えられるよう精いっぱい心を込めて歌います。」

これまでのコンクールでも部員たちはその都度「納得のいく演奏を目指す」と言い続けてきました。このコメントを目にして、今気づきました。「感謝の気持ちが伝えられるよう精いっぱい心を込めて歌う」

こと、それが「納得のいく演奏」だったのでしょ。そしてこの日がその最終章だったのでしょ。

演奏を終えてホールから出てきたとき、生徒の表情は緊張から解放されて少し紅潮していました。すでに涙を流している生徒も少なくありません。特設合唱部として参加した男子の中にも涙が抑えきれない生徒がいました。夢のステージまでの遠い道のりをたゆまず歩いてきて、培ってきたものをすべて出し切った達成感が胸に迫っているのだろうと理解しました。実際に生徒たちに聞いてみたいところですが、果たして言葉で表現できる性質のものかどうかはわかりません。



会場の外で生徒を出迎える保護者の方々の中にも、涙をこぼしている人がいます。「ああ、そうか。これはもらい泣きじゃない。」そう思いました。演奏に感動した涙、生徒の姿に感動した涙、そういう涙なんだと直感したのです。しかし、これもご本人に聞いてみないとわかりませんね。

最後に、早速お祝いの言葉を寄せてくださった橋本克也市長様はじめ、関係各位、地域の皆様にご心から御礼申し上げます。

## 記念演奏会のお知らせ

日時 平成30年11月14日  
18時開場・18時30分開演  
20時終演予定  
会場 須賀川市文化センター  
主催 合唱部保護者会  
演奏曲 全日本合唱コンクール自由曲  
NHK全国学校音楽コンクール課題曲  
◇ どなたでも観覧いただけます。入場は無料です。整理券等ありません。

## 最終下校時刻は 18時

11月から最終下校時が18時00分になります。私たち教職員も時間厳守で下校させますので、お子さんの帰宅時刻が遅い場合は安全確保のためにも躊躇なく学校に連絡して下さい。

また、10月12日付けで県中教育事務所から「不審者による児童生徒事故の未然防止について」という通知が各学校に配布されました。これは、県中域内で不審者による声かけ等事象の発生が続いているため、あらためて注意を喚起するものです。外出の際の注意事項として、下記内容をお子さんと共に確認して、被害防止に努めてください。

### 【登校時・下校時】

- 一人での行動をできるだけ避ける。
- 人通りの多い明るい道路を通るようにする。
- 防犯ブザー・ホイッスル等を携帯する。
- 知らない人にはついて行かない。
- 知らない人の車には絶対に乗らない。
- 被害に遭いそうになったときには、大声で助けを求め、すぐに逃げる。
- 部活動等の終了後は、複数ですぐに帰る。

### 【帰宅後・休日】

- 「誰と・どこに(で)・何時に帰るか」を家の人に伝えてから出かける。



万一、被害に遭いそうになった場合には、速やかに警察と学校に知らせてください。このような犯罪には必ず前兆行動があり、徐々にエスカレートすると言われていきますから、早めに情報を共有することが大切です。

## 松明完成間近

三者相談期間中は午前中授業となるので、その放課後を利用して、3年生の志願者からなる「松明づくり隊」による松明の制作が10月29日(月)から始まりました。

今年も伊藤克一さんの指導の下で、松明本体を作る係、松明をくるむ畳表を縫い合わせる係、松明に着けるのぼり(幟)旗を作る係の3隊を組織して制作を続けてきました。

その松明もいよいよ完成間近となりました。校内文化祭で「全力を尽くす」ということがどんなことか、身をもって体験することができた生徒たちです。11月10日(土)の松明あかし本番では、松明も生徒たちも「完全燃焼」することでしょう。



## ことばの力④ ハートは自分で鍛えるしかない

「テクニックは人から教わることもできる。でも、ハートは自分で鍛えるしかない。」

11月17日(土)に開催する創立70周年記念式典の講演会に、講師でお招きするラモス瑠偉氏の言葉です。ラモス氏の数々の名言の中でも、私が最も好きな言葉です。

(詳しくは知らないのですが)地球の裏側のブラジルからサッカー後進国だった我が国にサッカー選手として来日し、かつ帰化して日本代表として生きようとした彼の生き様、そして、何よりも柔らかいボールさばきと鋭いパス回し、常に気迫あふれるプレースタイルから、この言葉に大きな力を感じ、ガツンという衝撃を伴って納得させられてしまうのです。

演題は「夢をあきらめない」。氏は、極めて熱く、強靱なハートの持ち主なのでしょう。しかし、それは「自分で鍛えた結果だ」と言うのです。私のような凡人の遠く及ぶところではないけれども、一歩、いや半歩でも近づくことはできるのではないだろうか。そんな火を心に点していたいと思うのです。

生徒のみんなにも、繰り返し挑戦しよう、何度でも立ち上がってみせるといふハートを自ら積極的に鍛えようという思いを持ってほしいと願っています。地域の皆さん、同窓の皆さんの同じような願いが、「不撓不屈」という校訓に込められているのだと、私は理解しています。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。